



障がいの有無にかかわらず 共に学ぶ公民館の実践 ～国立市公民館「コーヒーハウス」～

井口 啓太郎

国立市教育委員会教育部公民館館長補佐

・生涯学習課課長補佐兼任（社会教育主事）

／文部科学省「障害者の生涯学習推進アドバイザー」

井口の自己紹介

- 2000年頃 大学時代に「社会教育(という職業)」と出会う
- 2001年～ 世田谷区教育委員会・足立区で社会教育の仕事をしながら夜間大学院で社会教育を学ぶ
- 2007年～ 国立市入職、税務課を経て、国立市公民館にて「コーヒーハウス」や新規の若者支援事業等を担当(9年間)
- 2018年～ 文部科学省に出向、障害者の生涯学習政策を担当、全国各地で体制整備やモデル事業に携わる(4年間)
- 2022年～ 国立市へ帰任、再び公民館へ(生涯学習課兼任)
- 2023年10月～ 文部科学省から「障害者の生涯学習推進アドバイザー」の委嘱を受ける
- 「困難のある人とともに在ろうとする社会教育実践の探究」をテーマに、実践・政策・研究に関わっています

国立市の概要

- 面積：8.15km² 人口：76,182人（2023年3月31日）
- 障害者数：身体1,938人、知的517人、精神587人
- 東京都のほぼ中央に位置。全国の市では4番目、都内では、狛江市に次いで2番目に小さい。
- 市内に唯一の公民館が位置する市内北部の学園都市エリアは、東京都文教地区建築条例により文教地区に指定され、一橋大学を縦断する「大学通り」を中心に、都市景観を重視したまちづくりが進められてきた。



TOKYO
東京都

0 10 20km

※国立市公民館が制作したか60周年記念映像作品
YouTube「人がつながる 世界がつながる」（約6分）
<https://www.youtube.com/watch?v=7Jm8zhz2M7o>





国立市公民館の外観

国立市公民館(都市型公民館)の3つの機能

①公民館主催でさまざまな講座 やイベントをおこなう場

- ・しょうがいしゃ青年教室
 - ・中高生のための学習支援
- 現代的課題、地域社会、文化、表現と創作
……などなど多彩な講座

行政が「社会教育法」に基づいて設置する、市民が自由につどい、出会い、学び合う“学びのひろば”

事業運営を担う職員:

正規職員7名、事業専門員(会計年度任用職員)3名、ほか
※うち、社会教育主事発令者4名、有資格者2名

②市民のサークル活動や学びを 支える場

ホール・音楽室・和室・実習室・講座室・
各集会室3部屋

保育室

⇒市民グループは各部屋を無料で使える

③誰でも気軽に立ち寄れる 憩いの場

朝9時～夜10時まで開館

市民交流ロビー:展示や学習スペースにも
喫茶わいがや:若者としょうがいしゃ運営する
喫茶スペース

公民館図書室:2万6千点の蔵書

国立市公民館が大事にしている考え方 ～なぜ会場貸出や講座参加が無料なのか～

- 誰もが経済的負担なく（公費で）学ぶことができる環境（=学習権）を保障する。
- 個人の学習ニーズに適切に応じること（市場原理に基づく個人の欲求に合わせた資源提供）よりも、
→社会参加に制約のある（孤立リスクを抱えた）人を含め、多様な人が地域で相互に関わりをもつような学習を紡ぎだしていくことを組織・支援する。
- 要は「誰一人置き去りにしない」ことを目指したい。

コーヒーハウスの取り組み

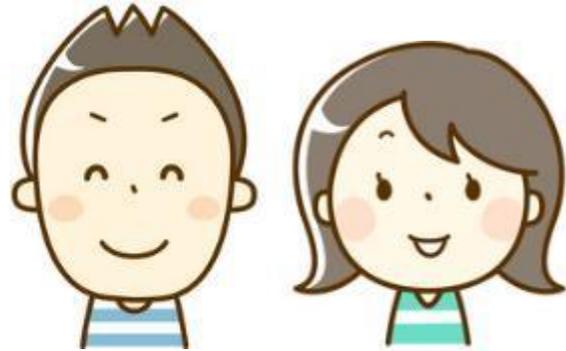
(しょうがいしゃ青年教室＋喫茶わいがや)

国立市公民館の「青年室」と「喫茶わいがや」 (総称して「コーヒーハウス」)の歴史

- 1953年：青年学級振興法
- 1955年：東京都国立市公民館開館
- 1960年：「商工青年学級」開講（「金の卵」と呼ばれた勤労青年を対象とする余暇活動）
- 1967年：「青年室」開設
- 1970年代：青年学級の停滞。「目標設定のある学習」よりも自由な「たまり場」での活動がスタートする。この活動に、障害者の青年も加わっていく。
- 1979年：国立市公民館改築
- 1980年：「しょうがいしゃ青年教室」開設
- 1981年：喫茶コーナー「わいがや」オープン

⇒ 「勤労青年」の活動をベースに、障害のある青年が加わり、活動の形態が移り変わりながら、現在に至っている。

「コーヒーハウス」に関わる人たち



メンバー

- ・「障がい者手帳」を持つ参加者
- ・学校卒業後(10代後半～70代まで)
- ・毎年4月に各コースを申し込む

活動と一緒に
楽しみ合う！ = 仲間
学び合う！



スタッフ

- ・高校生～30代くらいの若者たち
- ・大学生、社会人、主婦など色々な背景



公民館職員

- ・公民館の「しょうがいしゃ青年教室」
担当職員

コーヒーハウスの活動拠点

「青年室」

「喫茶わいがや」



青年室



喫茶わいがや



市民交流ロビー



しょうがいしゃ青年教室

● 公民館主催の、国立市内在住・在勤のしょうがいしゃ向けの余暇・文化活動。

● 月1回、土日を中心に活動。

● 6つのコース（スポーツ／クラフト／料理／喫茶実習／リトミック／YYW（やりたいことを企画し、実行する講座））。

● 全体でしょうがいしゃ約60名が登録。

● 企画・運営は公民館職員とスタッフ（学生、会社員等）により担われ、スタッフにとっても、障害のあるメンバーと関わる学びの場になっている。

喫茶わいがや

- 市民グループ「障害をこえてともに自立する会」（会員数約120名）が運営。
- 火曜日～日曜日の12～18時で営業。
- 営業スタッフ約10名（学生、会社員、主婦等、10～30歳代中心）が、ローテーションで活動。
- 「しょうがいしゃ青年教室」喫茶実習コースのメンバーが活動。
- 1日の平均売り上げは約6000円。スタッフの平均時給は200～500円程度（＝わい給）



コーヒーハウスの年間行事

●しょうがいしゃ青年教室、喫茶わいがやに関わるスタッフ・メンバー全体の交流行事。

●季節ごとに、お花見／夏企画（BBQなど）／ソフトボール大会／ふれあいスポーツのつどい／クリスマス会／餅つき大会／合宿を開催。

●運営はスタッフ・メンバーの中から立候補で選ばれた実行委員と公民館職員により担われ、スタッフにとっても、障害のあるメンバーと一緒に企画をつくりあげる場となっている。



青年講座・自主サークル



- ・パン部
- ・初心者山部 などなど



コーヒーハウスの活動の様子は、インスタグラムでもご覧いただけます

- 「青年室」(コーヒーハウス)に関わる若者と公民館職員が企画する市民向け講座。
- 講座終了後、自主サークルとして活動することも……。
- スタッフとメンバーの有志が活動する自主サークルもある



コーヒーハウスが育んできたもの

● 一緒に活動する若者スタッフの多くがしょうがいのある人と接した経験がほとんどない「素人」として……

⇒ 障害のある・なしに関わらず、同じ目線で、話し合い・楽しみ合い・学び合いながら活動をしていくことにつながる。

⇒ 福祉やボランティアに関心を持ち活動に参加するスタッフもいるが、活動を通して「障害者と活動することは“支援すること”だけではない」と気づいていく人も多い。

● <様々な活動>と<居場所>の組み合わせ

＝余白の時間にも出合いや学びがたくさん……！

⇒ 多様な若者が、色々な入口から集まり、自分のペースにあった様々な関わり方をすることができる。

⇒ メンバーもスタッフも、暇な時間にふらっと「青年室」に行き、自由におしゃべりをしたり、のんびりしたりすることもできる。

⇒ 障害の有無にかかわらず、「若者が、自分とは異なる他者と出合い、関係性を培い、共に学び合いながら地域での生活を豊かにすること」につながっている。

